

警察庁と日本自動車連盟（JAF）は、2016年のシートベルトの着用率の調査結果を発表しました。

一般道路での着用率は運転者が98・

5%、助手席が94・9%の一方、後部

座席は36・0%

と低調でし

た。高速道路

では、順に99・5%、98・0%、71・8

%でした。特に、一般道路での後部

座席の着用率が極端に低くなってい

ます。

後部座席での非着用の危険性は

全座席でシートベルト着用

①車内で全身を強打し、自分自身に大きな被害を受ける②車外に放り出される③前席の人が被害を受ける——などがあります。

シートベルトの非着用は、死亡事

故に直結する危

険性があり、着

用は、被害を軽

減する効果があります。一般道路、

高速道路を問わず、すべての座席で

シートベルトを着用して自分自身の

命を守りまし

よう。

交通安全三要素